



### 1. はじめに

北海道上空に居座った強い寒気の影響で、道内は13日午前も厳しい冷え込みに見舞われた。同日朝の最低気温は十勝管内陸別町で-23.8度と今冬一番を記録したのをはじめ、各地で平年値を3-10度下回り、日中も気温が上がらず11日から3日続きの真冬日となる見通しだ。

札幌管区气象台によると、このほかのアメダス観測地点での最低気温は低いところで宗谷管内歌登町が-22.9度、上川管内朝日町が-22.8度、網走管内生田原町が-22.3度など。日中の予想最高気温は旭川で-6度、札幌で-3度など全道的に氷点下となり、1月下旬並みの冷え込みとなる見込みだ。

### 2. 〇〇〇〇〇〇

道内では11月下旬から気温の低い状態が続いており、日本気象協会道本部によると、偏西風が南北に蛇行しながら西から東へ吹き、上空5000mで-42度の強い寒気を大陸方面から運び込んだのが原因。



図表 1

この影響で、網走と網走管内女満別町にまたがる網走湖は例年より5日ほど早い11月末に一面結氷し、13日現在、氷の厚さは約5cm。特産のワカサギの秋漁の船は、網や船体が氷で傷つく恐れがあるため11月30日から出漁できなくなっており、西網走漁協によると、今季の漁獲量は前年より約31t少ない約86tどまり。

歳暮にも用いられるつくだ煮や甘露煮などを製造する地元の水産加工会社は「12月初旬から加工品は完売か品薄の状態。年明けの氷下漁を待つしかない」「注文を泣く泣く断るケースも出てきた。売れる時期に原料がないなんて」と嘆いている。

寒気は13日午後から徐々に緩み、14日にはほぼ平年並みに戻りそうだ。

冬型の気圧配置の影響で、12日の道内は日本海側を中心に10mを超える強い風となり、吹雪などのため空の便や道路の交通に影響が出た。

空の便は、羽田、旭川など道内外と函館を結ぶ12便が吹雪や積雪のため欠航や到着地変更となり、乗客約700人に影響が出た。また、東日本フェリーの函館一大間線(1日2往復)、東日本海フェリーの江差-奥尻線(同)の計8便が欠航した。

道警交通管制センターによると、同日午後9時現在、吹雪のため、高速道路は道央自動車道豊浦インター-長万部インター間の全線33.8kmと、同虻田洞爺湖仮出入口インター-豊浦インター間の上り線8.0kmが通行止め。このほか吹雪などのため国道は1路線1区間、道道は4路線4区間がそれぞれ通行止めとなっている。

室蘭開建室蘭道路事務所は、悪天候のため、室蘭港にかかる白鳥大橋を同日午後6時40分から通行止めとした。札幌管区气象台によると、室蘭地方では最大風速が15mに達し、断続的に吹雪となっている。

### 3. 〇〇〇〇〇

北海道付近は冬型の気圧配置となり、上空に1月下旬の真冬並みの強い寒気が入り込んだため、12日いっぱい日本海側を中心に突風を伴う大雪になる見込みだ。札幌管区气象台は、大雪と風雪に関する気象情報を発表して交通障害やなだれ、船体着氷などに注意を呼び掛けている。

同気象台によると、11日午前9時から12日午前零時までの降雪量（アメダス観測）は深川24cm、夕張18cm、美唄15cmなど。降雪量は12日朝までに、日本海側の多いところで20－30cmとなる。日本海側ではその後も、12時間で20cm程度の雪が降りやすい状態が続く。風は陸上で18m、海上や岬では22m、波の高さ4－5mの大しけとなる。

気温は全道的に低く、各地の最高気温は－5度前後にとどまる見込み。

道警交通管制センターによると、12日午前零時現在、吹雪のため、道道美川黒松内線の後志管内島牧村一同管内黒松内町中の川間（14.5km）が通行止めになっている。

11日の道内は上空に強い寒気団が入り、各地で冷え込んだほか、日本海側を中心に風雪が強まった。荒れた天気は12日まで続くという。

この悪天候で同日正午現在、道央自動車道の岩見沢インターチェンジと奈井江砂川インターチェンジ間34.8kmが上下線とも通行止めとなっている。荒天は12日いっぱい続き、今後の降雪量は日本海側の多い所で40-50cmに達する見込み。陸上で18m、海上で22mと風も一段と強まるという。

札幌管区気象台によると、発達中の低気圧が道内を通過する影響で、石狩、空知、後志地方は10日から11日にかけて、大雪や吹雪に見舞われる恐れがあり、同気象台は交通障害や高波、雪崩などに注意を呼び掛けている。

低気圧の通過で10日は冬型の気圧配置が強まり、上空に真冬並みの寒気が入る。同日午前には雪が降り始め、同日夕までに日本海側などの多いところで、30－40cmの降雪になる見込みで、11日にかけてさらに多くなるという。

風も10日朝から強まり、最大風速は陸上で15m、海上で20mに達する見込み。

道央を中心に大雪となった7日、札幌地方も6日午後3時からの降雪量が7日正午までに札幌市中央区で16cm、同市南区小金湯25cm、恵庭市島松38cm、石狩市19cmに達し、バスの運行タイヤが最大1時間遅れるなど大幅に乱れ、通勤・通学の市民の足に影響が出た。

#### 4. ○○○○

7日午前10時現在のバスの運行遅れは、中央バスが石狩市から札幌中心部に向かう便で最大40分、北広島から札幌中心部への便が同50分、市内循環便は同30分。JR北海道バスの遅れは、札幌－小樽への高速バスが同20分、札幌－手稲が同35分など。両バスは通勤・通学時間帯には最大1時間遅れの便も。札幌市営バスも東区内を走る便が最大40分遅れた。



図表 2

新千歳空港カウンターや搭乗待合室は混雑し、出発の遅れがアナウンスされると、携帯電話で連絡を取るビジネス客の姿が目立った。東京へ出張に行くという札幌市西区の会社役員（50）は「すでに1時間半以上も待たされている。これでは仕事にならない。日帰り出張なのに」と苦り切った表情で話していた。

#### 5. まとめ

すでに、エアーニッポン、全日空、北海道エアシステム計6便が欠航することが決まっているほか、数便が欠航を検討している。その他の便も大幅に遅れる見込みで、タイヤの乱れは終日続きそうだ。

新千歳航空測候所によると、この雪は6日午後四時から断続的に強く降り、午前9時までに33cmの降雪量を観測。この雪で、同空港の滑走路、誘導路、駐機場のすべてが使えない状態になり、同事務所が早朝から除雪作業を行っているが、午前10時現在「間もなく作業を終えたい」としている。